

第34回 横浜市環境創造審議会会議録	
議題	1 会長・副会長選出 2 横浜市地球温暖化対策実行計画 2024 年度の実施状況について（報告） 3 横浜市環境管理計画の2024年度の推進状況について（報告） 4 その他
日時	令和 7 年10月24日（金） 9 時30分～11時00分
場所	横浜市役所18階共用会議室 みなと 6・7
出席委員	進士 五十八（会長）、佐土原 聡（副会長）、長岡 裕（副会長）、岡本 浩明、奥 真美、亀屋 隆志、川辺 みどり、川本 守彦、小堀 洋美、坂井 文、佐藤 一子、杉岡 正敏、藤倉 まなみ、吉野 富雄（14名） ※敬称略、会長・副会長以下50音順
欠席委員	高梨 雅明、田澤 重幸、田島 夏与、中村 雅子（4名） ※敬称略、50音順
開催形態	公開（傍聴人1名）
資料	1 議事次第 2 資料 1 : 横浜市環境創造審議会 委員名簿 3 資料 2 : 横浜市環境創造審議会 幹事名簿 4 資料 3 : 横浜市地球温暖化対策実行計画 2024 年度の実施状況について 5 資料 4－1 : 横浜市環境管理計画 2024 年度の推進状況 6 資料 4－2 : 【参考資料】2025 年版横浜市環境管理計画年次報告書 7 参考資料 1 : 横浜市環境管理計画 8 参考資料 2 : 横浜市地球温暖化対策実行計画 9 参考資料 3 : 横浜市地球温暖化対策実行計画（市役所編）

議 事

1 会長・副会長選出

（関根みどり環境局戦略企画課長）

それでは、次第に沿ってご説明いたします。一つ目の議事案件は「会長・副会長の選出」です。委員改選後初めての審議会であるため、会長及び副会長名の選出をお願いします。横浜市環境創造審議会条例第 5 条第 2 項により、会長及び副会長は委員の互選によって定めることとなっております。自薦、他薦のいずれでも結構です。ご発言ある方はいらっしゃいますか。

（亀屋委員）

僭越ではございますが、これまでご指導いただいております、進士委員に引き続き会長をお願いできればと思います。また、副会長には、佐土原委員、長岡委員にも引き続きお願いできればとご提案します。以上です。

（関根みどり環境局戦略企画課長）

ありがとうございます。ただ今、亀屋委員からご発言をいただきました。他にご発言は

ございますか。それでは、ご異議がないようですので、会長は進士委員に、副会長は佐土原委員、長岡委員をお願いいたします。

それでは会長、副会長から一言ごあいさつを頂戴したいと思います。まず、進士会長、よろしくをお願いいたします。

(進士会長)

おはようございます。特にありませんが、GREEN×EXPO 2027 は非常に大事だと思っています。関西・大阪万博とは異なる「静かな環境」として、あるいは「自然と人間の共生」を目指す、なんとなく品の良いそういう横浜市であってほしいと思っています。もう一つは、横浜市は長年市民活動が活発な都市であり、市民力が見せられると良いと思います。昔「環境市民とまちづくり」の本を3巻出しましたが、自然共生も環境共生も地域共生もすべて取り組んでいます。都心のみなとみらい地区で横浜の野菜の市場をやることはまさに地域共生です。

本日は温暖化と環境管理計画がテーマです。これまでは環境が行政分野のすべてに渡っておらず、環境分野だけで対応していればいいという時代でした。しかし、どの部署も環境を考えなくてはいけない時代になったと示すため環境基本法、環境基本計画ができました。今は、それぞれが環境を配慮するようになりました。GREEN×EXPO 2027 というビッグイベントを上手に使い、専門家だけでなく市民が大いにその気になり教育現場などに環境行政の思想が入っていくようにしないといけない。環境の思想が日常化するようぜひ頑張ってもらいたいと思います。

坂井先生にも審査員に入っていていただいています。第一生命保険株式会社スポンサーの「緑の環境プラン大賞」をやっています。2020年の東京五輪の時は、2020万円を3年間出してもらいました。今度はGREEN×EXPO 2027に2500万円出してもらいたいと思っています。私はこれまで民間資金を市民団体・活動に渡るよう働きかけて来ました。なぜここでそういう話をするかという地元の横浜市の努力でこういったことをやってほしいと思うからです。アーバンデザインは市民活動でした。ぜひ今度の2500万円を横浜グループで取得してもらいたい。

それ以外にもGREEN×EXPO 2027では市民参加のプログラムがありますので、期待しています。

いずれにしても本日は2つの議題です。環境管理計画が初期よりもずっと広がって社会化するそういう計画になりました。全体が見えてくると意味が出てきます。そういう意味のある審議会ですので、委員の皆さんにはそれぞれのご意見・ご専門の立場から頂戴したいと思っています。

(佐土原副会長)

環境の問題は益々大きくなっていく中、環境審議会の役割も益々重要かと思っています。微

力ながら副会長を務めさせていただきます。よろしくお願いします。

(長岡副会長)

元々水道・下水道専門ですが、下水道は局が別れてしまいました。引き続き連携は必要かと思っていますので、貢献していきたいと思います。よろしくお願いします。

(関根みどり環境局戦略企画課長)

ありがとうございました。ここからの議事の進行は進士会長にお願いしたいと思います。進士会長、よろしくお願いいたします。

(進士会長)

それでは、次第に従いまして議事を進めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

本日は2件の報告です。昨年度の事業が報告されていますので、自由闊達にご質問・ご意見をいただければと思います。早速ですが、横浜市地球温暖化対策実行計画2024年度の実施状況について、事務局、よろしくお願いします。

2 横浜市地球温暖化対策実行計画2024年度の実施状況について

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO推進局脱炭素マネジメント課長)

「資料2-1」説明

(進士会長)

ありがとうございました。質問も含めてご意見を頂戴したいと思います。Webの委員からお願いします。佐藤委員、いかがでしょうか。

(佐藤委員)

私は、家庭の二酸化炭素を減らすところに力を入れたいと思っています。今、青葉区しらとり台で、横浜市の補助金をいただいて、市民の行動変様、特に家庭の二酸化炭素を減らす取組をしています。

何人にチラシを配ったとか、何人が参加したという普及啓発は簡単です。しかし、実際に脱炭素となると、本当に行動してもらわないと脱炭素は達成できません。いかに市民の方たちに行動してもらおうかです。

自治会と連携し、自治会の回覧に入れてもらっています。その中から相談を受け付けるように努力はしています。

地域に戻って活動してみると、本当に市民には情報がない・届いていないというのが分かります。どのように状況を伝え、行動してもらおうかに今のところ取り組んでいるところ

です。

だんだん広がってきて相談者も増え、今、24、5人から相談を受けています。最初は全然ありませんでしたが、少しずつ広がってきています。区ごとに地域で一緒に取り組んでいくことがとても大事で、情報を市民に伝えていくことも大事です。

事業者の協力が得られるよう、非常に一生懸命進めています。まだまだこれからですが、何とか2030年に50パーセント達成のため、市民の力でも頑張れたらいいと思っています。

(進士会長)

他にご意見・ご質問があれば頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

(藤倉委員)

イベントにおけるカーボンネットゼロをどのように達成するのでしょうか。スライドP12にもあったように、国際会議などもたくさん開催していますし、GREEN×EXPO 2027もあります。

GREEN×EXPO 2027はアセスメントでも少し関わりましたが、計画段階では二酸化炭素の排出がプラマイゼロにはなっていなかったように思います。やはりこれからのイベント、あるいは、その後も残るようなものでいかに率先してCO₂をゼロにしていくかがとても大事です。GREEN×EXPO 2027でのカーボンゼロの取組についてお伺いしたいです。

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO 推進局脱炭素マネジメント課長)

イベントでのCO₂排出を抑えるのは非常に重要です。今年度、横浜グリーンパートナーシップ事業を行いました。太陽光発電や蓄電池を購入した市民にポイントを還元しています。

太陽光発電設備を設置すると当然、環境価値が発生します。その環境価値をポイントの代わりに横浜市がもらう取組を行っています。環境価値をためて、GREEN×EXPO 2027などの大規模イベントでオフセットするような取組を今年度はやっつけようというところです。

(小堀委員)

P16の2の19「基本方針7」で、グリーンインフラの導入件数が年11か所でした。実績値が非常に少ないですが、大きなグリーンインフラの実施以外に、例えば各家庭でレインガーデン、雨庭が大変盛んになっています。ここに出ている導入数は、公園や大きい施設で、市が管轄しているところだけを対象にしているのかなと思います。もう少し色々なところで小さいグリーンインフラは可能です。雨水の貯溜や浸透ももう少し考えてもらえたらと思います。気温の問題は大変大事です。実績が10か所では寂しい気がしますが、どのようなことを考えてこの目標にしたのでしょうか。実施の方針や場所について説明ください。

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO 推進局脱炭素マネジメント課長)

グリーンインフラで雨水の貯溜・浸透は非常に大事だと思っています。今年も色々ところでゲリラ豪雨により水に浸かったというニュースがありましたので、グリーンインフラは重要だと考えています。

ここで示した 11 か所は、公園など大きなところで行政の行ったものになります。下に写真が出ていますが、旭区こども自然公園や、大きなところでは岸根公園などで、昨年度は合計 11 か所行いました。

おっしゃるとおり小さい取組も目標にできればと思っているので、参考にしたいと思います。

(奥委員)

2023 年度は 25 パーセント削減できたということで、2030 年目標に向けて半分のところまで来ています。この後 25 パーセント削減しなければなりません。達成見通しについてはどのように考えているのでしょうか。

今、まとめで出していますが、エネルギー転換部門が非常に大きく減っています。一方、廃棄物部門が増えてしまっています。どのような要因でこのような傾向になったのでしょうか。もう少し詳しくご説明ください。

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO 推進局脱炭素マネジメント課長)

今、25 パーセントまで削減できていますが、達成見通しは、このまま今のペースでいくと 40 数パーセントぐらいまでにしか届かないと思っています。更に取組を強化する必要があると考えています。

部門別は、エネルギー転換部門は、横浜市の海側に企業がたくさんあります。その中で製造ラインを停止したりして、大きく減っています。廃棄物部門について、排出量としては、全体からすると小さなものですが、プラゴミが出たり、産業廃棄物が増えたりなど、ちょっとしたところで影響を受けて少し増えています。

(奥委員)

そういった要因分析をしっかりといただき、今後の見通しを立てた上で、2030 年に向けての目標達成のため、着実な取組をしてもらえればと思います。

(進士会長)

いつも Web で出ている方の意見を聞き損うので、今日は優先しました。

先ほど小堀先生がおっしゃった雨庭とかが流行っています。生物多様性の B プランは進

んでいるのでしょうか。私から言うと、水が浸透するのだったら、今度は温暖化の話でもあります。

プロジェクトだとテーマをはっきりしすぎます。環境は全体です。1992年に地球サミットがありました。その後、日本の政府も環境シフトをやり始めたときに、私は環境庁と建設省の両方で仕事をしていました。そこで「土木は透水性舗装をとことんやってください」と言いました。本当は自然面が一番いいのです。グリーンインフラなどというのだったら、自然面でなければ駄目なのです。

今はほとんどの人がマンション住まいです。私は商売柄、とにかく庭を大事にしています。庭を個人で作るのは大変です。過密な中で隣に迷惑をかけるので、木を切ったり、せん定したりしないといけません。

大江新太郎という建築家が昔、「庭園を持っている人は税金を安くする」と言いました。そのぐらい、都市の中で庭を持っている人は本当は感謝されないとはいませんが、今は逆にいじめられます。

土木は透水性で、水の循環をやれば気候変動にも非常に大きな影響があるのです。「ヒートアイランド現象」などと言っているのは、熱を出すものもありますが、逆に水が地下に入っていないからです。今は土木で全部水を捨てるように言っていますが、歩道ですらインターロッキングのようなすき間があれば、水が浸透して蒸発して気温が下がるのです。土木もそういう目でやってほしいです。

建築は省エネも色々やります。先ほどのようにパネルをつくって、電力も新しく生んでいます。こういう技術が盛んにあります。

横浜市は環境先進都市なのだから、ありとあらゆる環境的先進的な技術開発のフィールドを提供したら良いと思います。行政系の施設も提供するし、市民のグループで環境に配慮するコミュニティがあったら、そこで率先して色々な社会実験ができます。だから、今の透水性舗装や雨庭、ビオトープなどと分けずに全てに多面的な機能を持たせる発想を持たないといけません。環境の世紀になったら、環境の要素ごとに全部分断して企業も市民も分かれてしまい、相乗効果がありません。建築は省エネ、あるいは電力を生むというように。

我々は当然、みどりとして全体で取り組んでいるわけです。屋上から壁面から全部緑化をしています。その三つだけでも随分、エコロジカルシティができると主張しているわけです。それは1992年の話です。

そのように単純に考えたほうが良いと思いますが、一つずつ分けるとみんなもっともらしいのですが、市域の面積の比率にすると、微々たるものです。だから、先ほど先生が言ったような指摘があるのです。

だけど、その微々たるものが集まって全体になっています。市民も企業も店でもそういうことをどんどんやってくれるといいし、それを褒めてあげるといいです。

もう一つ、企業は新技術を開発しています。大学も研究をしています。そういうものを

応援することも必要です。環境先進都市とか実験都市とか、支援してフィールドを提供することです。例えばアンケートをして、ライフスタイルと環境問題に取り組めば、それは社会科学系の研究者も参加できるでしょう。これからそういうことも考えないといけないかなと思います。これは後の環境管理計画の市民参画の手法かもしれません。

(坂井委員)

正にそういう意味では、GREEN×EXPO 2027 が実験の場ということで是非やってもらいたいです。

今、建築物においてはLCA、ライフサイクルアセスメントを導入するという一方で、その評価軸を来年度決めていき、導入するという一方で、建築物を企画・計画・施行・管理・運営し、最後に廃棄するまで、サイクルの中でゼロにしていこうという取組みに既に着手しています。園芸博は、最後、廃棄しなくてもまた次に持っていくとも含めて、是非、建築物のLCAを国に先がけてGREEN×EXPO 2027 でやっていきましょう。さらに、会場はアセスメントをし、国が整備していますが、ゆくゆくは横浜市の公園になります。最後は横浜で引き取る責任もあるので、色々な実験台としてデータを取っていくということ、本当にGREEN×EXPO 2027 では大事だと思っています。

私もGREEN×EXPO 2027 にぜひLCAをはじめ、色々な環境に対する対策を練って行ってもらいたいです。

質問ですが、P5の「太陽光発電」で、再エネで一番導入していくのは太陽光ということになると思います。この57万はどのような方法で達成しようとしていますか。

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO 推進局脱炭素マネジメント課長)

太陽光発電に関しては非常に高い目標を掲げていて、取組の一層の加速が必要かと思っています。

横浜市では今年度から、建築物を建てる際に、建築士が建築主に「再エネを入れるとこれだけ効果があります」と説明する制度を始めています。また、その説明した結果を横浜市に報告する制度も始めています。

あるいは、横浜グリーンパートナーシップ事業で、太陽光を入れたらポイントに還元する取組もしています。そういったような色々な取組を進めて、何とか目標を達成できるように進めていきたいです。

(坂井委員)

やはりこれだけ過密化していると、建築物の屋上にとというのが考えやすいです。東京都は、新築は必ずというように非常に強力に進めているところでは。

一方で、横浜市はまだみどりのところもあります。そこに太陽光パネルを置くようなこともあるかもしれませんが、これは景観上、阻害になります。最近では景観の方でも、太陽

光パネルをどう扱っていくか議論が進んでいます。家の上に置く場合も光害や、景観的に問題となることもあります。もちろん進めなければなりません、それによる弊害の部分も何かしらの対策はしてもらいたいです。

(進士会長)

環境対策はそういう一面があります。長野などでも大問題になっていて、私も経験しました。観光地の場合、特に困ります。限界集落や放棄田のような農地がたくさんありますので、ところ構わず太陽光パネルが設置されてしまいます。要綱のようなものをつくって設置場所を考えたりはしています。

横浜市ではまだそういうことはやっていませんか。金沢八景とかになると、そういうことも必要になると思います。太陽光パネル設置は、場所を弁えてやるような話がありますか。

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO 推進局脱炭素マネジメント課長)

横浜市はこれだけ都市部なので、太陽光パネルを置けるところは非常に限られています。郊外部の雨水調整池などに設置するといった取組も進めているところです。

(進士会長)

今度のGREEN×EXPO 2027でも、例えば、路面太陽光発電などを設置してはいかがでしょうか。どの程度荷重がかかっても大丈夫なのかわかりませんが。

関西・大阪万博では人間洗濯機がありました。そうではなく、もう少し大事なテーマを集めてやって、GREEN×EXPO 2027の期間中だけでなく、その後の公園に移管し、市のものになったときにも継続的に使うことができるようにしてほしいと思います。GREEN×EXPO 2027の会場は里山地帯です。都心の中区などとは全然環境が違います。その良さを逆に生かして、カントリーサイドの良さをやるとかです。

市民の森などで横浜市はたくさんやっているでしょう。そういうノウハウをGREEN×EXPO 2027でやるとか、現代と自然や伝統と、両方のアピールをすることも考えられると面白いと思います。

(吉野委員)

温暖化に対する取組として、町内会館等に太陽光発電を設置した場合に補助金等が出るということで募集したところ、なかなか手が上がりません。応募期限を延長しています。

全部の町内会から聞いたわけではありませんが、私たちの近くの町内会が言うには、補助が出ても工事費がかかります。町内会の会員が減少していて、会費収入が少なくなっていますし、町内会の負担がかなり大きいのです。

横浜市から地域振興協力費など色々もらって活動はしていますが、計算方式があつて、

それに該当しないものが残ったら市に返すことになっています。繰越金や備蓄がありません。

確かに理屈は分かります。太陽光発電で発電することで、電気料を払うのが少なくなります。太陽光発電は、町内会館や自治会館、集合住宅の集会所なども適用になってきていますが、自分たちが出す費用はかなりウェイトが大きいので踏み切れないのが実態のような気がしています。建替えや新築のときは設置したほうがいいだろうけれど、現実今あるものに対して太陽光発電を付けるのを補助金で行うとなると、けっこう厳しい面があります。

港北ニュータウンの場合は最初、「みどりを考えなさい」ということで40:60の建蔽率でした。しかし、みどりを持っていても土地の面積に対する税金はどんどん上がる一方です。

次の代になると、「こんな植木は親が植えたけれど、いらない」と言って切っているところがあったりします。そういうものに対して、少し税金が下がればみどりを残すことも考えるでしょうが、敷地的にかなり厳しいところもあります。

町内会として一番困っているのは、資金面です。建替えとなるとまた、寄附などがなかなか集まりにくいです。実際は踏み切れません。

(進士会長)

吉野さんが言うとおりでです。

半世紀近く前、江戸川区は生垣補助条例を出すときに全額負担にしました。普通は、助成金は何割か自己負担です。だから、自己資金がいるのですが、それを全額で2万5,000円ぐらいずつ出しました。それでコンクリートブロックから生垣化が進みました。

財政の関係があるため、行政は大体、一部負担や一部助成です。これは「やっている」という存在証明でしかありません。実際は進みません。

生け垣条例がどのぐらい実行されているか、23区を調べたことがあります。本当に進まないのです。議会の人にも理解してもらわなければなりません。本当にやる気ならあるゾーンを決めて、そこは全額負担でやるとか、自治会館がモデルなのだから全部やるとか、そういうことまで考えないといけません。

(佐藤委員)

しらとり台では、脱炭素だけでなく災害対策として、太陽光発電を設置しました。何かあったときには絶対に自治会館が拠点にならなければいけないということで、会長が補助金の申請をしました。太陽光発電5キロワットと蓄電池が12.7キロで、9月30日に設置が終わりました。費用は約350万円ぐらいです。そのうち3分の2の補助金が出たので、130万円ぐらいを自治会が出しました。会長は、「災害のことを考えたら130万円は何とかする」と言って付けてくれました。そういう事例を色々ところで発表していけば、「それならやってみようか」という人もいるのではないかと思います。

(進士会長)

ヒートスポットになってしまったようなところを重点的にやるという行政の政策もあるし、全額やるけれど、プロポーザルで中身がユニークで先進性があるところとか、方法は色々考えられると思います。「財源がないからできない」と言うともできません。色々な助成金制度をつくるけれど、実際には役に立たないことになってしまいます。現実にはやらないといけない時代ということは、この夏で皆さんが承知しているはずで、温暖化ではなく、もう酷暑化なので、災害です。

(杉岡委員)

先ほど横浜市のCO₂削減の進捗状況の報告がありました。私は2023年度に25パーセント削減したという横浜市の取組は一定程度評価していいのではないかと思います。このペースでいくと40パーセントにとどまり、目標に対し未達ではないかという話もありました。

私ども神奈川県経営者協会としては、神奈川県ともコミュニケーションしていますが、横浜市ともしっかりコミュニケーションを取り、この50パーセント削減目標の意義や背景をしっかりと共有しています。経営者の中では目標に対し、「これをやらないと企業として存続できない」というところまで踏み込んで、思いを共有しています。

一般の皆様は「企業ほどの危機感を持って」とまでは言いませんが、「50パーセント削減していかなければ地球が持たない」という危機感の共有をするのが、40パーセントから50パーセントへの穴埋めの一つではないかと思っています。

横浜市にはストロングポイントがあります。GREEN×EXPO 2027があることが横浜市にとって非常に武器になると思っています。是非このGREEN×EXPO 2027を契機に、更に温室効果ガスに対し、一般の皆様の感性を高めるようなイベントなどしてもらい、目標に近づけていく努力をしてもらえればと思います。

(川本委員)

トランプ大統領のSNS発言や、その中でのEVに対する議論の仕方、また、ここへ来て国内の洋上風力発電や、一部メガソーラーの環境破壊など、「ネガティブキャンペーン」とは言いませんが、そういったものは大きく表に出ます。ところが、いいことを少しずつやっているところはローカル誌にも出ません。そこの地域の人も知りません。こういうものは「仕方」が非常に難しいのかなと思います。少しずつ積み重ねて10、20になっても、何か大きなことがバーンとあると消えてしまうというか、埋まってしまうような気がしません。どうにかならないのかと思います。

実行計画というのは、達成目標に対して、我々としてはもう少しロードマップを段階的にして、取り組む団体に見える形になったほうがいいのかと思います。中間点で精査したものにどういった形で取り組んでいて、「実際今こうだけれど、もう少しこういうこと

を工夫してくれないか」といった前向きなサジェスションを下ろすにはどうしたらいいのか、私自身も悩んで考えているところです。実施の段階でもう少し具体的な反映ができたかどうかと考えています。

商工会議所の窓口などにも言っていますが、まだまだ中小零細企業の人たちには、カーボンニュートラル自体もそうですが、それとリンクした地域貢献や社会貢献をどうしたらいいのか分からない人が想像以上に多いです。窓口で相談しに来た人たちに「こういったことをすればいいですよ」という情報を提供する場を必ず設けてくれと言って、今、具体的にやってもらっています。そういったことにもう少し行政と一体感を持った取組ができればと考えてもいます。

やはり数値化することは世の中で非常に大事になってきていますが、この審議会で審議している実行内容と数値目標のギャップを感じているところもあります。それを少し詰めていこうという話をしています。

(岡本委員)

農業分野で直接的にエネルギーを使うということだとトラクターだとかそういう機械がありますが、高齢化、人手不足で、機械化しないとできない状況があります。どこまでできるか分かりませんが、スマート農業等を使いながらなるべくエネルギーを使わないようにと思います。

二つ目が流通です。今、直売所でも進めています、近くで販売することで二酸化炭素の減少に引き続き努めていきたいと思います。

三つ目は加温ハウスです。これに対しては今までも二重カーテンなど技術の支援等も受けながらやっています。次のステップとしては蓄熱型や、ペロブスカイト型太陽光発電など新技術を活用していきたいです。

太陽光発電は、蓄電技術の重要性が高まっているかと思います。リチウムイオンバッテリーの発火など色々ありますが、蓄電技術がキーポイントになるかなと思います。そのあたりも取り組んでいきたいです。

(川辺委員)

横浜市は以前ブルーカーボンクレジットをやっていて、ブルーカーボンオフセット制度は2年ぐらい前にもうやめるような話を聞きました。もうやらないのでしょうか。

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO 推進局脱炭素マネジメント課長)

ブルーカーボンに関してクレジットのようなことはしていませんが、取組としては、港湾局でブルーカーボンに資するような取組をしています。クレジットはしていませんが、ブルーカーボンの取組としては微力ながらやっている状況です。

(川辺委員)

何万トンという量に比べると確かに少ないですが、港横浜の象徴的な CO₂ 対策になるのではないかと思います。是非続けていただきたいし、横浜市全体として取り組んでもいいのではないかと考えています。

3 横浜市環境管理計画の2024年度の推進状況について

(関根みどり環境局戦略企画課長)

「資料3」説明

(長岡副会長)

アンケートはよくまとめられています。私の専門に関わるところで、P6「市民意識調査から」で「何が重要ですか」という設問がありますが、「親しめる水辺空間」が比較的小さいです。横浜市の中で、親しめる水辺空間が意外と少ないことの表れかなと思います。こういうアンケート結果を見て、これからの施策に生かしてもらえればいいと思います。

個人的には上下水道が特集になっているのはうれしいです。また内容を見たいと思います。

(進士会長)

環境管理計画の根本的なところで何かありますか。「こういうことを加えたら」ということがありますか。

先ほど川本委員から、「小さいこと、目立たないことで大事なことが抜けているのではないか」という話がありました。コラムで小さな話も出ているようです。中華街で食べ残しを持って帰るといことも書いてあるようです。

(川本委員)

企業意識調査は4年に一度実施しています。環境の「企業意識調査」の中で、製造業と非製造業があります。非製造業の中でも、運輸関係のところとサービス業関係とでは全然違います。無作為でやって、なおかつ回答したウェイトが右にぶれるか左にぶれるかによります。なおかつ4年前にやったところが答えているか・いないかがあります。統計は継続性が大事です。もう少し中身が見える化したほうがいいのかなと思います。

(進士会長)

そのとおりです。設問の中で、「環境情報を収集する」と書いてあります。収集というのは研究者は意識的にやりますが、「環境情報に接する」とすれば、テレビや新聞のニュースでも接しているわけです。これは難しいです。

大体、アンケート調査はすごく難しいのです。川本委員から指摘されたようなことはた

くさん出てきます。

(川本委員)

回収率が高いと思います。商工会で実施する時は回収率が10パーセントですから。横浜市はすごいですね。

(進士会長)

それはありますね。それは市の信頼があるからです。

もう一つ、世論調査などはずっと昔から経年的に同じ質問でやる必要があります。意識のほうがどんどん変わっている時代なので、昔の質問は今はほとんど無意味かもしれません。こういう調査は調査のプロがいますので、検討する価値はあるかもしれません。

副会長に総括してもらいますが、環境管理計画で何か大事なポイントがあるという意見はありますか。Webの先生方もどうぞ。

個別の意見をいただけたら、まだ追加可能なようです。先ほどのしらとり台のような事例もここに入れたらというような意見も含めてどうぞ。

(関根みどり環境局戦略企画課長)

今後意見をもらえる場合は2週間をメドに意見をもらえればと思います。12月頃に発表を予定しています。

(進士会長)

ピンクの表紙の年次報告書を見てもらい、何かございましたら2週間以内に提供してもらいたいと思います。

(佐藤委員)

地域で脱炭素をやっていこうとしたら、区役所との連携が非常に大事になってきます。実行計画も含めて是非その辺も検討項目に入れてもらいたいです。別途また意見を出したいと思います。

(進士会長)

今度のGREEN×EXPO 2027もそうだし、緑化フェアのときもかなり区役所が頑張ってくれました。この年次報告書はきちんと第4章に区別のもあります。更に意見があればお願いします。

(佐土原副会長)

今の環境の状態は酷暑や水害など、過酷な状況があります。「はじめに」に載せるか、

気温や雨の頻度などのデータも添えて年次報告書に入れていくと受け取られやすいのではないかと思います。できる範囲で配慮いただければと思います。

温暖化のほうは、ライフサイクルの話が出ました。本当に、建築の分野では大きく変わるところだと思います。ライフサイクルになると、建設の材料も含めてですから、建築部門の業務だけでなく、産業や運輸部門にも波及して、相乗効果が出てくる時代に入っていくのだと思います。非常に重要な取組です。

こういった項目ごとに見るとそれぞれ進捗状況というのはあるのですが、大都市の中心部だとなかなか脱炭素までいけないところの課題が大きいです。低層だと比較的太陽光でうまくやれる部分もあるかと思います。地域を少し意識した形でとらえていけると、場合によっては住んでいる方や地域で活動している方々にも訴えることにもなるかなと思います。具体的にどうこうではないのですが、視点として入れてもらえると訴求しやすいかなと思いました。

(進士会長)

本日は11時に終わることになっています。10人近くも部長が並んでいて発言の機会がなくて申し訳ありません。局長、いかがですか。

(鈴木みどり環境局長)

今日も皆様に色々議論をしていただき、共通しているところがあるなと思いながら聞きました。我々も説明者が変わったり、テーマごとに仕事内容に取り組んだりしていますが、全てつながっているというのは正にそのとおりです。

色々アンケート等は取っていますが、事業を伝える中で実際にやってもらえるのかという懸念もあります。先ほど「中小、零細も含めて」という話がありました。自治会を含めて市民の方々もいます。

今日議論してもらったのは、正にそういったところにつながる場の一つかなと思いました。

これからGREEN×EXPO 2027の場で実験的にも、あるいは、その後つながるかも含めて取り組んでいきたいと思っています。

大阪・関西万博もそうですが、恐らくコンテンツは、政府系の出展も含めてギリギリまで出にくいところはあるかもしれません。横浜市として大きく二つあります、産業テクノロジーという先進の箱物のところと、屋外の自然を生かしたところをつくるのが明確になっています。こういったものをやりたい、やってほしい、実験してくれといったことを今もどんどんもらっています。開催期間は192日間ありますが、何ができるか、その後どうつなげるか、きっかけも含めてしっかり考えていきたいと思っています。どんどん意見や提案を頂戴したいと思っています。よろしくお願いします。

(進士会長)

それでは、これで終わります。事務局にお任せします。

(事務局)

本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。これもちまして第34回横浜市環境創造審議会を終了いたします。

(了)